

質と量、双方を兼ね備えた新しい種雄牛「満開1」

山形県農業総合研究センター畜産試験場

研究のねらい

高品質な牛肉を安定的に生産し、「総称山形牛」のブランド力強化と和牛の産地としての評価向上を図るため、優れた遺伝的能力を有する種雄牛を作出する。

研究の成果

- ① 発育と肉質の良い県産種雄牛「平忠勝」を父、肉質の良い「北国7の8」を母の父に持つ血統で、体型的には体積に富む(写真1)。
- ② 枝肉重量、ロース芯面積、ばら厚(ばらの部位の厚さ)、推定歩留、脂肪交雑(霜降りの度合い)が優れている(表1)。
- ③ 枝肉の上物率(肉質等級4と5の割合)が高い(表1、写真2)。

表1. 「満開1」産子の枝肉成績

	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	ばら厚 (cm)	推定歩留 (%)	脂肪交雑 (BMS-No.)	上物率
15頭平均	525	66	9.6	75.2	8.2	86.7
去勢(10頭)	550	66	9.7	74.9	7.9	80.0
めす(5頭)	475	66	9.3	75.8	8.8	100.0
県産種雄牛平均*	466	58	7.9	74.0	6.7	74.8

*平成19年度以降、同じ方法により能力検定を行った種雄牛8頭の平均値



写真1 種雄牛「満開1」



写真2 産子の枝肉のロース芯断面